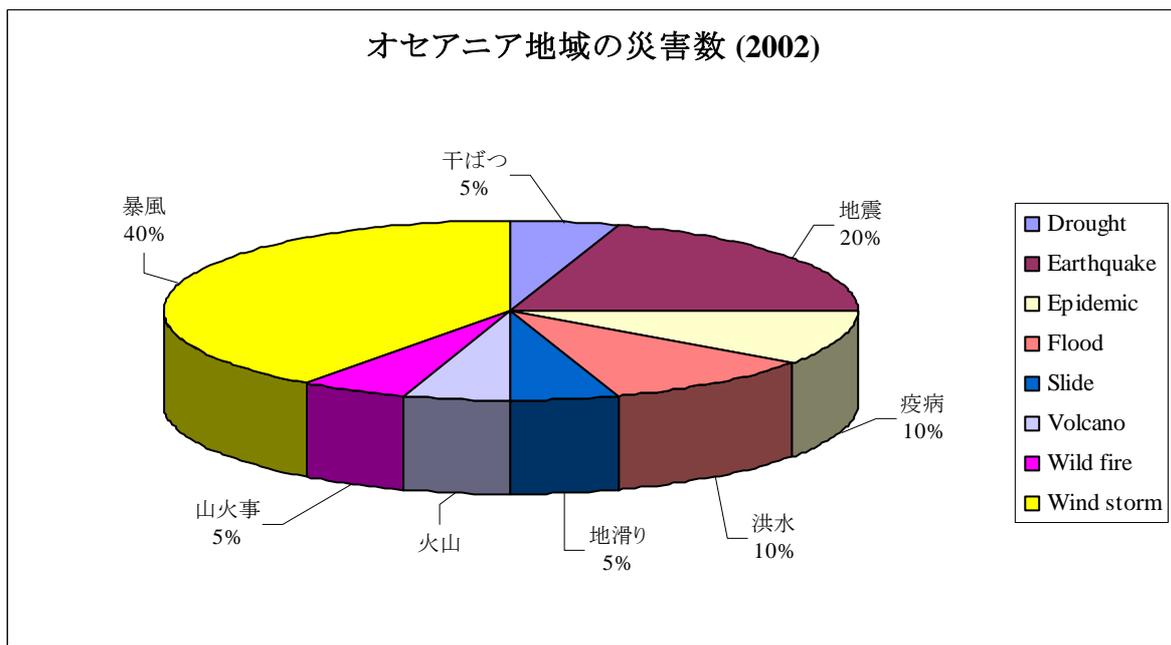


### 3.2.5 オセアニア地域の特徴

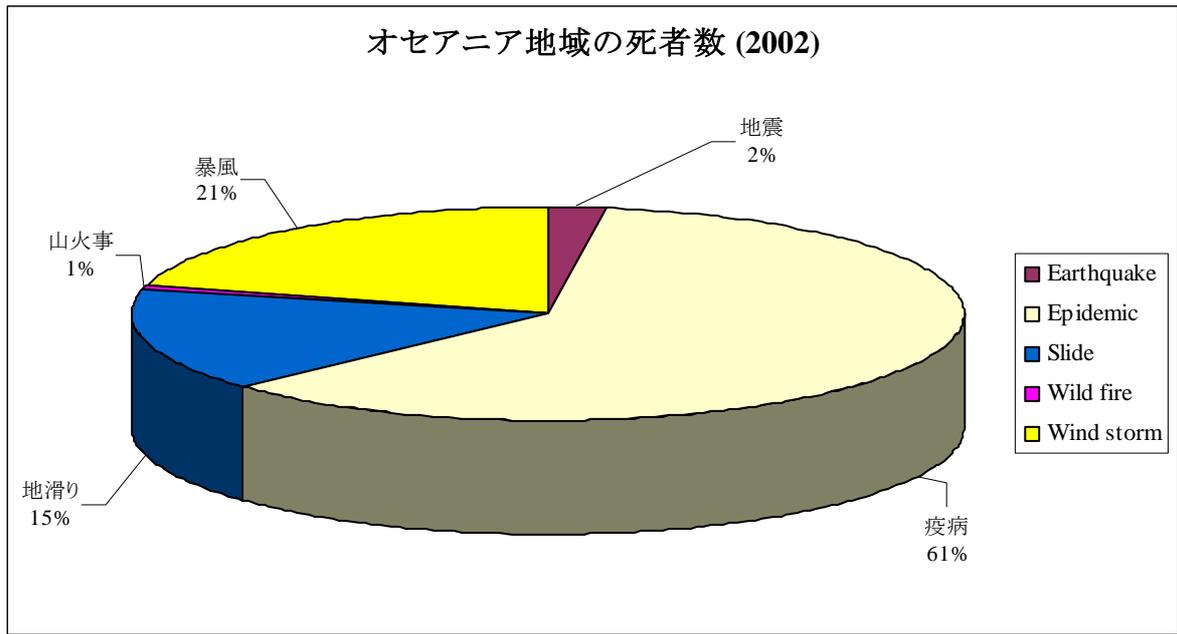
2002年におけるオセアニアは、他の地域とは少し異なった傾向を示しており、またオセアニアにおける自然災害の平均的な発生パターンとは違っていた。ほとんど全種類の自然災害が発生しているが、図34にみられるように暴風、洪水、地震、疫病といった災害が80%を占めている。図35によれば、人的損失がもたらされた原因のトップは疫病（61%）で、続いて暴風（21%）、地滑り（15%）となっている。この理由としては、2002年にパプアニューギニアで発生した疫病災害が挙げられる。図36は総被災者数の傾向を表したもので、それによると人的被害の86%が火山、暴風、地震によって引き起こされていることがわかる。例年と異なった傾向を示している原因として、グアムに深刻な被害をもたらした暴風とパプアニューギニアで発生した地震と火山活動を挙げる必要がある。オセアニア地域における結論としては、オセアニアの地理条件が原因の気象災害と地震・火山災害の影響を受けた年であったと言える。

図 34



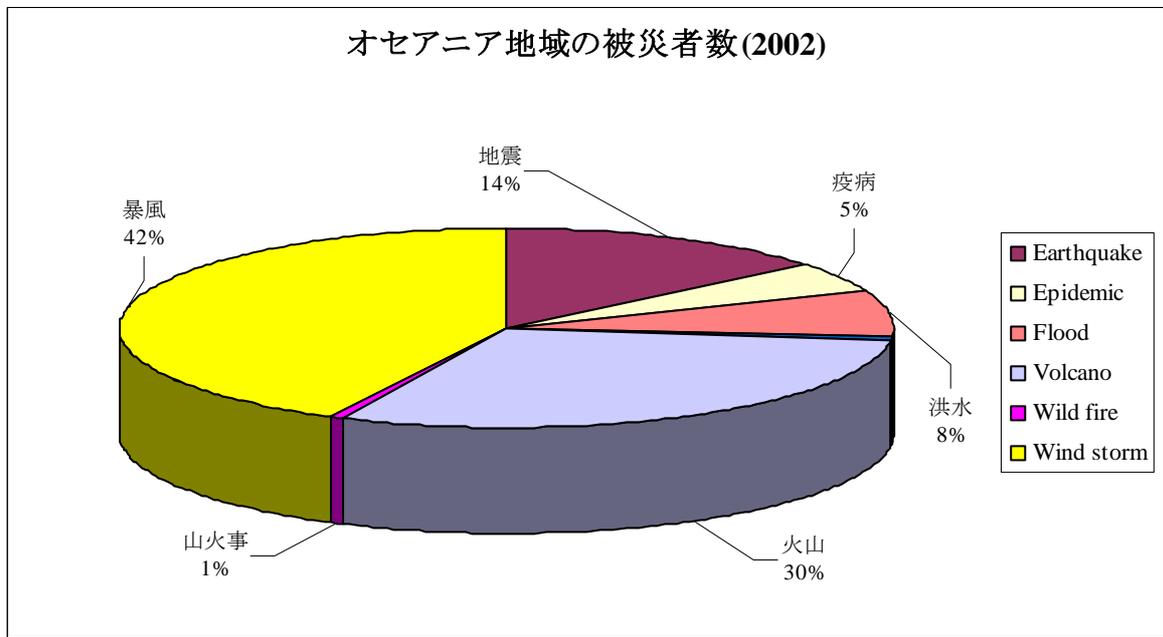
出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）

図 35



出典 : ADRC (アジア防災センター・日本)、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)

図 36



出典 : ADRC (アジア防災センター・日本)、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)

このセクションでは、地域別にみた世界での自然災害パターンを観察した。また第一章の表 2 と 3 にあるように、このような側面を一覧表で表した。このような表や図から、2002 年は世界のすべての地域が気象災害の影響を受け、またオセアニアは例年以上に地震・火山災害を経験したと総括できる。人的損失や被害から見て明らかなのは、アジア地域が世界で最も災害に対して脆弱な地域であるということである。被災した人々から社会・経済的発展を奪い取り、また持続可能を目指した地域・地球規模での経済的発展にも影響を与えているものといえる。